

# 岩手教区報

第348号  
 立教184年12月1日  
 天理教岩手教務支庁  
 盛岡市馬場町3-40  
 TEL 019-622-7962  
 FAX 019-623-9597



## 勇んだ地域活動を 三陸支部長 高橋 邦之

今年も師走を迎え、これまでの歩みを振り返りたい。当三陸支部は2年前の4月に宮古支部と釜石支部が合併し、岩手県沿岸の中ほどに位置する支部として産声をあげた。当初は、お隣の支部として顔は知っていたけれども、親しく接したことがあまりなかったお互いが、ようぼく成人講座やみおしえ学習会、そして月々の支部例会などを通して、少しずつではあるが「近くの教友」という意識が芽生えつつある。

昨年7月には赤濱分教会が神殿落成奉告祭を執り行い、被災した教会が全て復興を果たした。「朝夕のおつとめがつとめられることがこの上ない喜び」、「教会設立の元日に思いを致し御恩報じの道を進みたい」と、喜びの声を聞かせて頂くにつけ、今後の教会内容の更なる充実を期待してやまない。

一方、お戻り教会については、上級教会に統合後、布教所開設などそれぞれ新たな道歩んでいる。申し訳ない結果を招いたとはいえず、「末代」とお聞かせ頂く教会の理は、消滅してしまうものではないと信じる。真柱様は私達の「丹精不足」をご教示下された。地道で機を逃さない丹精をもって親心にお応えしたい。おたすけの力をより結集して、次の塚に備えるべく足元

を固め、節から芽が吹くご守護を願うばかりである。東日本大震災から10年の節目の本年3月、教区主催の慰霊祭が宮古市の三王園地で執行された。祭文中で教区長先生は、「体験と教訓を風化させる事なくしっかりと次代へ伝えながら、ここに改めて災害救援活動の更なる強化充実を期し、たすけあいの輪を広げる努力を重ねて参る所存」と奏上された。災害救援活動が叶わなかった宮古地区で慰霊祭を執り行つて下さったことは、被災地の一ようぼくとしてこれほど有難いことはない、心と形の復興に誓いを新たにしたい。貴重な一日だった。

昨年8月、表統領先生は「これからの道の歩み」をお示し下され、その中で「心のマイナスをプラスに切り替えて」、「おたすけ実践の姿がある教会へ」、「一つひとつの教会がもつと光らねばならない」と、コロナ禍そしてその先の私達の通り方をお話し下された。

支部活動は学びあいとたすけあいと聞かせ頂く。年が明ければ立教185年。たすけ一条の拠点である教会、そしてようぼく信者が一手一つに光り輝くために、今出来ることに創意工夫を凝らして、地域の勇んだ姿を教祖にご覧頂きたい。



### 「胎児の世界と生命の波」

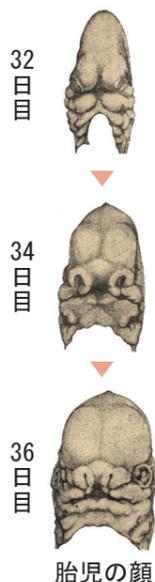
今から35年前になるが、私は親里で三木成夫氏(解剖学者、医学博士)の講演を聞いて感銘を受けた。テーマは「胎児の世界と生命の波」だったと思う。

私達の生命は受精卵という一つの細胞から始まる。この細胞は分裂を繰り返しつつ次第に人間の形態を整えていく、実に不思議なドラマでもある。

胎児の世界は、地球上に初めて細胞が発生してから、数億年という進化の過程を夢まぼろしの如く再現される誠に不思議な世界でもある。蛇や猫、かまきりなど全ての生物は、人間と同様それぞれの進化の過程をたどる。そして、今日まで受け継がれてきた妊娠から出産までの「十月十日」の間、母胎内の様相は正に数億年からなる生命記憶の壮大なドラマの圧縮された再現であると説かれている。

従来、胎児の姿は横からしか見ることが出来なかったが、三木氏の手法により

胎児の顔を真正面から確認することが可能になったという。胎児が刻々顔かたちを変えていくのは数億年の生命ドラマを再現している証拠である。受胎32日目の胎児は正に「ふか(鮫)」の顔をしている。その「ふか」の顔は36日目には爬虫類の顔に変わっていく。古代魚類の面影が爬虫類に変わり、やがて「けだもの」の顔を持つ哺乳類に、そしてわずか70日の間に、数億年にわたる人間の進化の過程を繰り返すと言われる。



胎児の顔

と、生命の誕生や進化についても、人知、人力の遠く及ばぬことを明言されている。更に人体の巧みな構造、微妙な機能は両親の工夫で造られたものでもない。総て創造の神の妙なる思わくにより、またその守護によると、教典に諭されている。

#### 「みおしえ学習会」開催報告(11月分)

- 一関4日(木) 磐井分教会 14人  
〔ファシリテーター 滝浦 剛〕
- 三陸14日(日) 花宮古分教会 20人  
〔ファシリテーター 工藤 裕樹〕
- 奥州28日(日) 岩手沢分教会 25人  
〔ファシリテーター 桐山 太司〕

#### 行事予定 【12月分】

- 1日 主事会(15時)
- 2日 役員会議(10時)
- 4日 学生担当委員会例会(19時)
- 11日 教区報編集会議(16時)
- 12日 雅楽初心者講習会(10時)
- 16日 行事調整・予算会議(10時)
- 25日 献血ひのきしん(10時)
- 〃 青年会例会(18時)

さて、天理教の教えの中に、人間創造の「元はじまり」の説話があるが、八千八度の生物の生まれ変わりを繰り返して、やがて人間の赤ん坊の面影となる神秘的な過程は不可思議以外の何物でもない。又、受胎の日から30日過ぎに、わずか1週間であの数億年を費やした脊椎動物が水中生活から陸へ上陸する姿も記憶されているという。この気の遠くなるような生命の悠久な流れを、母の胎内の中で再び迎える「十月十日」の進化を、三木氏は厳粛な自然の摂理として感動の中に究明されている。

然るに、天理教の教祖は明治7年「おふでさき」で、

月日よりたん／＼心つくしきり  
 そのゆへなるのにんけんである(六 88)  
 たいないゑやどしこむのも月日なり  
 むまれだすのも月日せわどり (六 131)



九戸支部 南平分教会



三陸支部 宮古分教会



奥州支部 紋臈分教会



一関・県南支部 磐井分教会

婦人会は11月に、「支部の集い」を6支部（一関と県南は合同）が実施した。どの会場も委員長部長などの代表の参加ではあったが、久々に寄り集ってのおつとめ、DVD鑑賞や趣向を凝らしての話し合いに、勇んだ声があふれた。



### 婦人会

#### 「支部の集い」

#### 5会場で実施される

なお、全会場で加藤教区主任の挨拶が代読された。  
「来年4月19日に開催される第104回婦人会総会と、11月27日（日）におちばで開催される女子青年大会のお打ち出しを頂き、楽しみを持って来年も歩ませて頂きましょう。」  
参加者数（婦人会員のみ）は次の通り。  
一関・県南 14日（日） 13名 磐井分教会  
奥州 14日（日） 9名 紋臈分教会  
花巻 17日（水） 7名 浜洋分教会  
三陸 19日（金） 11名 宮古分教会  
九戸 21日（日） 13名 南平分教会



花巻支部 浜洋分教会



仲野芳行先生

10月31日、本部

員・表統領室長の仲野芳行先生を講師にお迎えし、教務支庁を会場に教会長夫妻研修会を開催、教会長37人、配偶者26人、代理3人、計66人が受講した。

開講挨拶で加藤教区長は、「人は明るいところに集まってくる。教会長自身が明るくなる努力をし、自信と誇りを持って歩もう。今年、教会の統合やお戻りにより教会数が減ったが、お互い信仰の基本に立ち返り、再出発を誓う研修会とした」と述べた。

続いて登壇された仲野先生は、昨年の8月27日に表統領先生より「これからの道の歩み」としてご発表頂いた三つの方針について、ご自身の解釈と体験をもとに講話を進められた。まず、「困難な状況に苦しみ悩む人に寄り添ったおたすけを心がけ、実践することが大切」と述べられ、「この地に天理教の教会があつて有



難いと感じて貰えるよう、教会周辺との繋がりを通して成程の姿を映すこと」と、地域に根ざした教会のあり方を示された。そして、「自らが教への修得に励み、『用いねば反対同様』との仰せを肝に銘じ、日々の信仰実践に努めよう」とご教示された。その後、質疑応答が行われた。  
午後は鳴物の合わせ方をご指導頂いた。地方や他の鳴物と合わせる気持ちを持つて勤める、おつとめを拝する人が勇むような綺麗な音色や調子を心掛ける、月次祭にはしっかりと準備をして臨むことなど、おつとめに向かう姿勢や鳴物を合わせる上での大切な心構えをお話し下された。  
最後に檀割主事より、今回の研修会を活かし、会長夫妻が勇んで教会活動を進めていこうとの閉会挨拶があつた。



### 災 救 隊

#### 「支部幹部研修会」実施される

教区災救隊は11月12日、教務支庁を会場に支部幹部研修会を実施、支部班長など8人が参加した。

正午に集合し、窓ガラス拭きや換気扇エアコン、照明器具の清掃など、庁舎内外の大掃除に励んだ。その後、例会を持ち、10月の本部での隊長会議の報告があり、来年度の活動予定等について話し合った。

#### 「白川山林整備ひのきしん」報告

11月26日午後から27日昼にかけて、「白川山林整備ひのきしん」がおちばで実施され、九州・沖縄、北海道・東北、兵庫の各教区隊、総勢74人が参加した。岩手からは4人が参加。

作業現場は、12月12日に開催される「奈良マラソン」コースの白川地区、その沿道の草刈りであった。好天のもと、事故なく結構にとめさせて頂いた。